

指定校番号	28104	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	津田和也	生徒指導主事	京谷隆宏
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『体育祭、文化祭に向けて』

取組のねらい 『キーワード 規律ある集団としての行動』

- 各行事における取組を通して達成感・成就感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てるとともに、規律ある集団としての行動を体得させる。
- それぞれの取組を通して責任感や連帯感を育て、学級内での共感的な人間関係の構築、自己存在感を確立させる。

取組の具体的内容 『キーワード 各々の存在感と責任感』

1 体育祭における取組

- (1) 学級を単位として多くの競技に取り組みせ、他の学級と競い合うことを通して、一人一人に学級の所属意識を持たせるとともに、責任感・存在感を持たせる。
- (2) 全学年を縦割りして組集団として取り組みせ、3年生をリーダーとして1・2年生を引っ張っていくことにより、3年生のリーダー性や1・2年生の集団に対する所属意識を育むとともに、人間的なふれあいの中で、自分を律する態度や能力を育てる。



2 文化祭における取組

- (1) 合唱コンクールの取組を通して、一人一人に役割や使命感を持たせ、「学級の一員」としての自覚を高めることで、規範意識の向上を図る。
- (2) モザイク画の作成を通して、学級内の人間的なふれあいの中で、生徒個々の存在感や責任感を育てる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 課題を採点項目に』

学級や学年の取組により、課題を抱えている生徒の多くが行事に参加することができた。しかし、一部の生徒は容儀面や態度面で課題が改善されず、そういった面での指導に偏ることもしばしばあり、行事への参加自体が危ぶまれる状況もあった。

そこで、学校生活における理想的な姿を基準として服装の乱れを点数化し、採点することにした。学級の一員としての自覚に働きかけることを行い、自ら服装を正すことにつながるよう取り組んだ。



取組の成果（効果）『キーワード 生徒同士の自治能力向上』

自分の違反が所属学級の採点に影響を及ぼすといった意識が芽生えた生徒は、自ら服装を正し、意識しにくい生徒も学級内のお互いの声かけにより、概ね改善が見られた。服装面の改善に伴い、態度面にも、徐々に変容が見られた。

また、教職員の7割が取組に対する効果を実感しており、教職員の生徒指導に対する意識の向上に繋がった

今後の展開『キーワード 生徒からの発信』

各行事における生徒指導上の取組については、生徒の参加意欲が高いため、成果が顕著に表われる。これらの取組を日常的に仕組むことで、生徒相互の関わり合いから生徒指導上の課題が改善されるよう進めていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 教員のチームワーク』

- 短期集中型の取組において、なかなか成果の上がない学校もあるが、生徒指導主事の取組に向けての「発信」に対して、本気で賛同し行動を共にできる教職員を一人でも多く増やしていくことが大きなポイントになる。これは生徒指導主事自身の働きかけの課題でもあるが、どんな取組でも「本気で動く教職員」の数を増やすことで成果も上がり、生徒自身の中にも善悪の判断ができるようになるなどの判断が見られると考える。
- 生徒が関心を持っていることをうまく活用して課題解決に向けた取組を進めることで、即効性は期待できないまでも、徐々に解決の糸口が見えてくると考える。粘り強く今後の成長を見据えて様々な取組を計画的に進めることが大切と考える。